様式第２号（第３条関係）

行 政 視 察 等 報 告 書

令和７年６月１６日

米 子 市 議 会 議 長 様

（会派の場合）
会派名　蒼生会
代表者氏名　稲田　清　（印）
提出者氏名　奥岩　浩基　（印）
（議員の場合）
議員名　（印）

下記のとおり報告します。

記

項　　目	□現地調査　■行政視察　□要請・陳情活動 □研修会への参加　□会議への参加
参 加 者	稲田　清、門脇　一男、奥岩　浩基、塚田　佳充、渡辺　穣爾
期　　日	令和７年６月４日から　令和７年６月６日まで

〔視察等年月日・場所・内容〕
〔視察等の目的〕
〔視察等要旨〕
〔視察等（説明）要旨に対する考え方及び本市の事務事業に参考となる点〕

※別紙のとおり

経　　費	旅　費	321,450 円
	お土産代	8,327 円
	手数料代	550 円
	タクシー代	17,890 円
	合　計	348,217　円

（注）氏名を自署する場合は、押印を省略することができる。

年月日　2025年6月4日
場所　　愛媛県新居浜市
内容　　上・工・下水道におけるウォーターＰＰＰの取組について

〔視察等の目的〕
上下水道サービスを将来にわたり安定的に提供するために、早期にウォーターPPPの導入の準備している先進地であるため視察をおこなうもの

〔視察等要旨〕
ウォーターPPPを導入する検討に入った理由は、①ヒト「職員の年齢構成に偏りがある」、②モノ「施設が老朽化している」、③カネ「料金収入の減少が見込まれる」という背景と、さらに、令和5年6月に国土交通省から取組への提案があったことによる。検討に入ってからは、令和5年度には国土交通省モデル都市としての検討会を7回、令和6年度にはウォーターPPP導入に向けた審査委員会を3回実施し、並行して、基礎検討段階(既存企業を中心にヒアリングや対話)、導入検討段階(窓口を広く設定してのサウンディング調査)を行い、事業概要を策定した。なお事業期間は令和9年4月から令和１９年3月までの１０年間とした。なお、その契約期間において、契約内容の見直しも可能としている点が特徴的であるとのことであった。また、コスト抑制を数パーセントと見込んでいるが、それでも数億円の財政効果が期待できるとのことであった。

〔視察等（説明）要旨に対する考え方及び本市の事務事業に参考となる点〕
米子市においても、令和6年度にサウンディング調査を2回行っている。今後、対象事業（上水道のみ、下水道のみ、または両者）、対象施設（処理場、ポンプ場、管路）、対象期間、開始時期、業務方式（支援型、実施型）といった各項目の具体的な内容を決めていくことになるが、ウォーターPPPを採用することになった際には、より効果的な事業運営を実施し、上下水道サービスが将来にわたり安定的に提供される体制づくりを求めていきたい。

［視察等年月日・場所・内容］

令和７年６月５日

松山市の道後温泉事務所　及び　道後温泉周辺エリア現地視察

［視察等の目的］

日本最古の温泉として知られる道後温泉（愛媛県松山市）における観光戦略と活性化計画について、松山市産業経済部道後温泉事務所からの説明を通じてその実態を把握し、伝統的な観光資源を活かしつつ、官民協働で地域活性化と持続可能な観光地づくりを推進する取り組みについて学ぶことを目的とする。特に、大規模な改修工事期間中の観光振興策や、駅前・周辺地域の包括的な景観整備、道路・歩道整備を通じた歩行者空間の創出が地域にもたらす効果に着目し、地域住民の理解と協力を得ながら、観光客と地域双方にとって魅力的な環境を創出し、将来的な地域振興策を推進していく上での知見を得ることを重視する。

［視察の要旨］

(1) 道後温泉の歴史と施設概要

- 道後温泉は日本最古の歴史を誇り、道後温泉本館と道後温泉椿の湯の入浴客は年間100万人を超え、旅館やホテルの宿泊客は年間90万人にのぼる四国・松山を代表する観光地である。
- 明治22年に初代道後町長に就任した伊佐庭如矢は、老朽化していた道後温泉の改築に際し、高額な費用から住民の反対があったものの、「100年後までも他所が真似できないものこそ価値がある」と説得し、改築を実現した。
- 外湯は町が整備し、内湯は昭和30年頃の旅館からの要望により供給量を増やした。温泉の泉源は松山市が所有している。

(2) 道後温泉活性化計画と重点整備エリアにおける景観・道路・歩道整備

- 道後温泉地区の更なる活性化と次代に誇れる道後温泉を継承・発展させるため、行政と民間が協働で「道後温泉活性化計画」を平成27年5月に策定した。
- 平成26年に道後温泉本館が温泉では初めて国の重要文化財に指定されたことで、観光客の一極集中と耐震化の必要性が懸念された。
- 計画のテーマは「百年輝き続ける最古の湯 ～外湯文化を受け継ぐおもてなしの環～」であり、以下の3つの重点整備エリアが設定されている：
  - 椿の湯エリア：飛鳥乃湯温泉の整備に加え、周辺道路の「高質化」、「電線類地中化」、沿道建物の「ファサード整備」を実施。これにより「日本最古の湯」を再現した空間を創出し、景観と機能性の向上を図っている。
  - 本館・冠山エリア：本館保存修理工事や本館を望む展望スポット、足湯、冠山アクセス道の整備を行い、安心して散策し憩える空間を創出する。
  - 上人坂エリア：宝厳寺再建（民間）に合わせ、周辺道路整備、電線類地中化整備、沿道建物のファサード整備により、歴史をつなぐ空間を創出する。
- これらの整備により、以前は大型バスで宿泊施設に直接移動し、少し散策して帰るというパターンだった観光客の導線を多様化し、様々なエリアからの来訪を促し、観光客が街全体を「歩いて楽しめる」環境への転換を図っている。「観光客をはじ

め、高齢者や身障者等に配慮した魅力的な歩行空間及び景観の形成」が課題として挙げられており、それに対する取り組みがなされている。

(3) 道後温泉駅前広場の整備と歩行者空間の創出

- 平成17年頃から、道後温泉駅前広場を含む周辺道路の付け替えや景観整備（ファサード）を官民協働で進めてきた。
- 特に、道後温泉駅前から道後温泉本館へ続くエリアでは、道路の付け替えとそれに伴う歩道の拡幅、電線類の地中化、沿道店舗のファサード（建物の外観）整備を集中的に行うことで、自動車中心の空間から歩行者中心の快適な空間へと大きく転換させた。
- この整備により、観光客が安全かつ安心して散策できる歩行者空間が創出され、街全体の一体感が向上したことで、宿泊客だけでなく、日帰り客や地域住民にとっても魅力的な散策ルートとなっている。これは主に民間が主導し、その行動力や提案力に市が追随し、協働で実現したものであった。

(4) 工事期間中の観光戦略

- 道後温泉本館の保存修理工事においては、全館休館とせず営業しながら工事を行い、工事の影響を最小限に抑えた。
- 「ピンチをチャンスに」との発想で、工事自体を観光資源化する施策を実施した。前期工事では「道後リボーン（手塚治虫）」、夜間にはプロジェクションマッピングを本館の窓に投影するなど、アート事業と連動させて工事期間中も魅力を維持・発信した。
- アート事業は平成26年（工事開始前）から取り組み、「最古にして最先端」をテーマに工事中も継続的に実施された。

(5) 官民連携と地域貢献

- 「道後温泉誇れるまちづくり推進協議会」が平成4年8月に結成され、旅館協同組合や商店街振興組合に加え、市民、企業、金融機関、地元町内会、大学の学識経験者などで組織されている。官民が連携して各種事業を展開している。地域の活性化や事業化として「地域自らが整備して検証する仕組み」「地元大学と協力し『持続可能な道後温泉協議会』での事業を共同実施されていた。
- 観光客推定表では、前年比8.1%増、インバウンド147.7%増（令和6年）となっており、工事完了後、日本人観光客も回復傾向にある。
- インバウンド観光客の消費額は平均3万5千円と推定されている。

3. 視察要旨に対する考え方及び米子市に参考になる点

道後温泉（松山市）は、日本最古という圧倒的な歴史と「外湯文化」という明確なブランドを基盤としている。その観光戦略は、大規模な改修工事を観光資源化し、アート事業やエリアごとの重点整備、そして駅前広場や周辺道路の付け替え・ファサード整備といった都市基盤整備を一体的に進めることで、観光客の回遊性を高め、長期的な魅力を創出することに主眼を置いている。特に、自治体が泉源を所有し、本館を管理していることで、街全体の景観や開発をコントロールしやすいという強みがある。

一方、米子市では現在、中心市街地と郊外の一体的な発展や公共交通の利便性向上、米子駅周辺の活性化を図っている。米子城跡の整備促進と観光資源としての磨き上げ、皆生温泉をはじめとした観光マネタイズの促進、東アジア（韓国、香港、台湾等）からの誘客促

進、地域イベントへの参画、クルーズ船の乗客誘致、ふるさと納税制度を活用した地域産品PRなどがある。また、一橋大学の学生との連携プロジェクトでは、米子を「聖地」として長期的な誘致とターゲット設定の重要性が提言された。

「ピンチをチャンスに」の発想と観光資源化：道後温泉本館の保存修理工事を逆手に取り、営業を続けながら工事自体を観光資源化し、アートやプロジェクションマッピングで魅力を発信した事例は、米子市が今後、皆生温泉や米子城跡などの既存観光資源の改修や整備を行う際に、工事期間を「観光の機会」として捉え、積極的に情報発信やイベントと連動させる視点として大いに参考になった。

駅前・周辺地域の包括的な景観・歩行者空間整備において、道後温泉駅前広場や周辺道路の「道路付け替え」「歩道拡幅」「ファサード整備」「電線地中化」を一体的に進め、歩行者中心の快適な空間を創出した点は、米子市の中心市街地、特に米子駅周辺や商店街エリアにおける景観整備と歩行者空間の創出において非常に参考になった。「観光客をはじめ、高齢者や身障者等に配慮した魅力的な歩行空間及び景観の形成」という道後の課題意識は、米子市にも共通するものであり、今後の整備の方向性を示唆する。皆生温泉においても、旅館街と温泉街全体の回遊性を高めるために、類似の整備を検討することで、観光客の滞在満足度向上と消費促進に繋がる可能性があるのではと考察される。

官民協働の強化と民間主導の推進の点において、道後温泉では「道後温泉誇れるまちづくり推進協議会」が結成され、民間が積極的にまちづくりを牽引している。米子市においても、米子城跡の整備や皆生温泉の活性化において、民間事業者（旅館組合、商店街など）の行動力や提案力を最大限に引き出し、行政がそれを支援する体制を強化が必要ではないかと感じた。皆生温泉は従来は旅館個別に完結しがちな現状があったため、道後のように商店街を含めた面的な活性化に向けて、官民一体での取り組みが不可欠である。

回遊性の向上と体験型コンテンツの創出の面から道後温泉は、3つの重点エリアを整備し、観光客の回遊性を高めている。米子市においても、米子城跡だけでなく、加茂川・中海遊覧やサイクリング・ウォーキングイベントなど、複数の観光資源を線で結び、滞在型・体験型観光を促進するための回遊ルートの整備や、多様なコンテンツの提供するなどの可能性が考えられる。特に、「歩いて楽しいまち」を目指す米子市にとって、道後温泉の歩行者空間整備は直接的に大きな参考となった。

地域ブランドの確立と戦略的な情報発信の観点からみると、道後温泉は「日本最古の湯」というブランドを明確に打ち出し、「百年輝き続ける」という将来像を共有している。米子市も、豊かな自然（大山、中海、弓ヶ浜）や歴史遺産（米子城跡、妻木晩田遺跡）といった独自の観光資源を持つ。これらの魅力を活かし、「山陰の玄関口」としての機能強化を図りつつ、米子独自の明確な観光ブランドを確立し、国内外に向けて戦略的な情報発信を行うことが必要であると考える。インバウンド誘致においては、単なる施設整備だけでなく、地域全体のストーリー性を強化し、「聖地」のような魅力的な目的地として認知されるようなブランディングが求められており、機運の醸成が必須である。

財源確保においては、道後温泉では泉源の市所有と本館を市で管理されている点から、観光戦略を推進する上での大きな強みとなっている。米子市においても、皆生温泉の泉源や市が所有する施設について、観光振興に資する財源確保や投資の可能性を多角的に検討する必要があるのではと考えさせられた。

以上、道後温泉の事例を参考に、官民一体となった「攻めの観光戦略」を推進し、地域住民の理解と協力を得ながら、持続可能で魅力的な観光地としての地位を確立していくべく会派や議連を通じ、議会では米子市当局に対して積極的に提言してまいりたい。

【視察等年月日・場所・内容】

令和7年6月6日

岩国市役所

「岩国基地」について

【視察等の目的】

本視察は、米軍基地と共存する自治体として先進的な取り組みを行う岩国市における基地行政の実態を把握し、基地が存在する環境下における住民の安全・安心の確保、地域への負担軽減、そして地域社会の発展に向けた取り組みや、国・関係機関との対話・交渉のあり方について学ぶことを目的とする。

航空自衛隊美保基地を擁する米子市が、住民生活への影響に配慮しつつ、地域として安定した環境を築き、将来的な地域振興策を推進していく上での知見を得ることを重視する。基地が地域にもたらす様々な側面に対し、岩国市が自治体としてどのように向き合い、住民の理解を得ながら基地との共存を図っているか、具体的な方策を参考としたい。

【視察等要旨】

(1) 岩国基地の概要と周辺環境への影響

- 岩国基地は米海兵隊岩国航空基地と海上自衛隊岩国航空基地が所在する日米共用基地であり、滑走路1本（延長2,440m）、各種施設（格納庫、管制塔、住宅、娯楽施設、学校、弾薬庫、港湾施設等）を有する。基地面積は市の平野部の約25%を占め、地域社会と密接に関わる大規模な施設である。
- 普天間基地所属のKC-130空中給油機（15機、約870人）が平成26年8月に、厚木基地からの空母艦載機部隊（約61機、約3,800人）が平成30年3月にそれぞれ移駐完了した。オスプレイMV-22（24機）も機種更新に伴い岩国基地へ陸揚げされている。
- 市は、基地の運用や施設変更が地域環境や住民の安全に影響を及ぼす場合、自治体として容認できないという明確なスタンスで国や米軍に臨む。

(2) 岩国市の基地行政スタンスと住民との対話

- 基地の騒音問題など住民が懸念する側面への対策を重視しつつ、基地が地域にもたらす交流や利点など、地域社会にとって望ましい側面にも目を向け、地域貢献へと繋がる取り組みを進めている。
- 空母艦載機移駐容認にあたっては、市民の不安解消のため、国への要望事項である安心・安全対策43項目と地域振興策の進捗状況を客観的に説明し、市議会全員協議会での活発な議論に加え、市内4会場で住民説明会を開催（計500名参加）して、市民の意見を丁寧に聴取し、理解を得る努力を重ねた。
- 新たな配備機（F-35B）の承認に際しても、市長自ら入間基地に視察に行き、実機を目で確認することで、市民への説明責任を果たす姿勢を示した。

・ 配備変更など地域環境に大きな変化が生じる際には、事務方が水面下で周到に準備を進め、市長が適切なタイミングで国へ要望を行うという、住民の声を反映させるための戦略的な交渉を実践している。

(3) 基地関連の地域振興と活用

・ 愛宕山運動施設:官舎用地だったが、市が住民利用を要望し、福利厚生施設含む運動施設として整備。基地周辺の土地を、住民の利用に供する施設として転換した事例。
・ 米軍基地との共用空港（岩国錦帯橋空港）：東京５便・沖縄１便が運航。東京便は北陸新幹線による利用減を見込み、米軍の沖縄出張への協力も得る形で増便交渉に成功した。
・ 基地内港湾施設の整備: 岩国基地は滑走路と港湾施設を併せ持つ国内唯一の米軍基地。基地内に港湾が整備されたことで、以前国道を通っていた物資輸送が解消され、住民の日常生活への影響（渋滞や騒音）が軽減された。

(4) 住民と基地の安全・安心対策と交流の推進

・ 米軍兵士向けの交通ルール教育（セーフティードライブスクール）や、住民・米軍による合同パトロール（安心安全共同パトロール）は、地域社会の安全確保と事件事故防止に繋がっている。
・ 外務省による米軍オリエンテーションプログラムで日本の文化・ルールをレクチャーし、相互理解を促進している。
・ 「フレンドシップデー」など、日米交流イベントを通じて、地域住民と基地関係者の相互理解と融和を図っている。

【視察等（説明）等要旨に対する考え方及び米子市に参考になる点】

(1) 航空自衛隊基地のある自治体としての米子市の視点

米子市は航空自衛隊美保基地を擁し、C-2 輸送機や KC-46A 空中給油機といった大型機が配備されている。岩国市のでは、米軍基地の有無に関わらず、大規模な防衛施設が周辺地域にもたらす影響への対応や、国・防衛省との対話・交渉のあり方において、米子市が参考にすべき点が多々あった。

(2) 基地行政のスタンスと住民との対話の強化

・ 岩国市が、基地の運用に伴う騒音等の住民負担の軽減を重視しつつ、地域振興といった側面にも目を向け、地域にとって望ましい共存関係を築こうとするスタンスは、米子市における美保基地との関係性において非常に参考となる。単に「負担」を訴えるだけでなく、「基地との共存によって地域にもたらされる可能性のある便益」を市民と共有し、理解を深める努力があった。
・ 住民説明会や議会での丁寧な情報提供と透明性の確保、市長自らが現場に足を運び確認するといったプロセスは、市民の理解と信頼を得る上で不可欠である。特に、美保基地の航空機（C-2, KC-46A）の運用状況の変化や、訓練内容の変更など、住民生活に影響を与える可能性のある事案が発生した際には、岩国市の事例に倣い、市民への十分な説明と、対話を通じた合意形成の手法は参考になった。

（３）自衛隊との連携強化による安全・安心対策と交流の推進

・ 岩国市が行うセーフティードライブスクールや安心安全共同パトロール、オリエンテーションプログラムは、米子市においても、美保基地の隊員と市民の相互理解を深め、地域における事件事故の防止に繋がる有効な取り組みである。特に、交通ルールや地域特性への理解を促すことは、不慮の事故防止にも貢献する。
・ 「美保基地航空祭」などの既存イベントに加え、日頃から自衛隊員と市民が交流できる機会（地域イベントへの参加、合同清掃活動など）をさらに増やすことで、基地と地域住民の連携をさらに強化し、自衛隊が「地域の一員」として市民に認識されるような関係性を構築すべきである。

(5) 共用施設の活用による地域貢献

・ 愛宕山運動施設のように、基地周辺施設を市民が日常的に利用できる共同施設として整備し、交付金を活用する事例は、米子市が美保基地周辺の既存施設や未利用地の有効活用を検討する上で参考となる。土地や施設を、地域住民の利便性向上やスポーツ・文化振興といった公益に資する目的で活用する視点は非常に参考になった。

米子市においても岩国市のように、地域住民の安全・安心を最優先に確保しつつ、基地との共存さらに発展させ、地域振興に繋がる施策を推進するためのさらなる取組が必要である。

行政視察行程（会派：蒼生会　５名）

月　日	行　　程	宿　泊　先
６／４ （水）	8:34　　10:43　11:35　　13:09 伯耆大山駅　＝＝＝　岡山駅　＝＝＝＝＝　新居浜駅　＝＝＝＝　新居浜市役所 JR 特急やくも８号　　JR 特急しおかぜ９号　　タクシー約４分（1.8 キロ）	昼食・特急車内 【タクシー会社】 ・駅前タクシー ☎089-737-2308
	新居浜市行政視察　　午後１時３０分から３時まで　　【議会事務局：はやし　様】☎0897-65-1321 【調査項目】　上・工・下水道におけるウォーターPPP の取組みについて 【場所】　新居浜市役所内　※正面玄関（事務局はやし様お出迎え）	
	15:10　　16:21 新居浜市役所＝＝＝新居浜駅＝＝＝＝＝JR 松山駅＝＝＝＝＝ホテル タクシー４分　　JR 特急しおかぜ 13 号　　タクシー	ホテル・ ホテルパティオドウゴ
６／５ （木）	ホテル（ロビー集合）	昼食・松山駅付近 【タクシー会社】 ・松山第一交通 ☎089-974-2700 ・四国交通 ☎089-977-123
	松山市行政視察　　午前９時から１０時３０分まで　　【議会事務局：新田様】☎ 089 -948 - 6652 【調査項目】道後温泉の観光戦略について　　【道後温泉事務所：白川主幹様】☎ 089-907-5554 【待ち合わせ】ホテルロビー　９時前頃	
	12:21　　15:11　15:26　　16:02　16:15　　17:05 道後温泉事務所＝＝＝＝JR 松山駅前＝＝＝＝＝＝＝岡山駅＝＝＝＝＝＝＝＝広島駅＝＝＝＝岩国駅＝＝ホテル タクシー２０分　　JR 特急しおかぜ 18 号　JR 新幹線のぞみ 31 号　　JR 山陰本線岩国行	ホテル・グリーンリッチホテル岩国駅前
６／６ （金）	10:15 ホテル＝＝＝岩国市役所 徒歩８分	昼食・岩国市内 【タクシー会社】 ・岩国第一交通 ☎0827-31-5151
	岩国市行政視察　　午前１０時３０分から１１時３０分まで　　【議会事務局：山口様】☎ 0827 -29 - 5193 【調査項目】岩国基地について	
	13:22　　13:48　14:03　　14:39　15:13　　17:25 岩国市役所＝＝＝＝新岩国駅＝＝＝＝＝＝＝広島駅＝＝＝＝＝＝＝岡山駅＝＝＝＝＝＝＝伯耆大山駅 タクシー　　JR 新幹線こだま 852 号　JR 新幹線のぞみ 98 号　　JR 特急やくも 17 号	

蒼生会・会派行政視察

愛媛県新居浜市、松山市、山口県岩国市

旅費計算表

令和7年6月4日　～　令和7年6月6日　(2泊3日)

月　日	区間	鉄道路線名	区間キロ数	目的地までのキロ数	運賃	グリーン	急行料金 特別	急行料金 新幹線	宿泊手当 (朝食付の額)	宿泊費 14,000円 (愛媛県)	宿泊費 11,000円 (山口県)
6/4	伯耆大山～岡山	JR	154.3		7,040		2,530		1,600	10,300	
(水)	岡山～新居浜	JR	123.3				2,190				
	(視察)										
	新居浜～松山	JR	91.3				1,530				
6/5	松山～岡山	JR	214.4		7,590		2,750		1,600		9,600
(木)	岡山～広島	JR	161.3					3,180			
	広島～岩国	JR	41.4								
6/6	新岩国～広島	JR	41.4		5,720			870			
(金)	広島～岡山	JR	161.3					3,380			
	岡山～伯耆大山	JR	154.3				2,730				
計	議員旅費			62,610	20,350	0	11,730	7,430	3,200	10,300	9,600
	随行旅費			0							

出席議員 稲田議員、門脇議員、奥岩議員、塚田議員、渡辺議員

議員旅費	62,610	×5名＝	313,050 円
手数料	550		550 円
タクシー代	17,890		17,890 円
土産代	8,327		8,327 円
		合計	339,817 円

伯耆大山駅パーク&ライド代金	400円×3日×5人＝	6000 円(稲田・門脇・奥岩・塚田・渡辺)
自家用車代 (自宅～伯耆大山駅 往復/25円)	8km×25円×2＝	400 円(稲田)
自家用車代 (自宅～伯耆大山駅 往復/25円)	16km×25円×2＝	800 円(門脇)
自家用車代 (自宅～伯耆大山駅 往復/25円)	2km×25円×2＝	100 円(奥岩)
自家用車代 (自宅～伯耆大山駅 往復/25円)	8km×25円×2＝	400 円(塚田)
自家用車代 (自宅～伯耆大山駅 往復/25円)	14km×25円×2＝	700 円(渡辺)
	② 計	8,400 円

①＋②＝ 348,217 円